

播磨科学公園都市のあり方検討 イノベーションチーム 第1回 記録

■日 時：2026年6月18日（木）14時00分～15時30分

■場 所：光都プラザ cotohana（会議室）、Web

■参加者：16名（有識者：3人、行政職員13人）

■要点：

1. イノベーションの基本的な考え方

- ・イノベーションは単なる改良ではなく、イノベーションは既存要素の「新結合」であり、既存のものを組み合わせて新しい価値を生み出すことである。（有識者）
- ・材料開発などの川上型だけでなく、生活や需要から発想する川下型のイノベーションも重要であり、地域で実証できる環境が強みになる。（有識者）
- ・国の政策でも産業クラスターが再び重視されており、テクノを産業クラスターとしてどう位置づけるかを考える必要がある。（有識者）

2. テクノの強みと課題

- ・テクノには既に挑戦しやすい基盤があり、電柱がない都市構造や過去のドローン・自動運転などの取組から、実証実験に向けた基盤は整っている。（有識者）
- ・過去の取組を検証し、活用されなかった理由を確認する必要がある、バス停など優れたインフラや過去の発想があっても、実際に十分活用されていないものがあり、なぜ定着しなかったのかを振り返る必要がある。（有識者）
- ・SPRING-8は都市の象徴だが、住民との心理的距離があり、何をしている施設か、分かりやすく伝える工夫が必要である。（行政職員）

3. 担い手・実行体制

- ・重要なのは「誰がやるのか」であり、過去にも多くのアイデアが出てきたが、担い手やキーパーソンが明確でなかったことが課題であり、旗を振る人や組織を考える必要がある。（行政職員）
- ・若者や学生を起点にしたボトムアップが有効であり、学生の自由な発想や身近な活動を拾い上げ、大人が支えることで、失敗を恐れず挑戦できる雰囲気をつくることが重要である。（有識者）
- ・住民・企業・大学・行政が同じペースで進むことが必要であり、一部だけが先行したり遅れたりしないよう、関係者が連絡を取りながら進めることが大切である。（有識者）

4. 外部連携・広域的な位置づけ

- ・テクノを広域ネットワークの中に位置づけるべきであり、けいはんな学研都市、大阪、神戸などにつながる広域的なイノベーション交流軸の中で、播磨科学公園都市を位置づける視点が必要である。（有識者）
- ・外部から投資・研究者・企業が入る流れをつくる必要があり、テクノの中だけで完結せず、外部から新しいアイデアや人材が来なくなる仕組みをつくることが重要である。（有識者）
- ・Woven Cityにおけるトヨタのように、人や企業を引き寄せるテクノの顔となるマグネットが必要であり、テクノではSPRING-8、県立大学、学生、知的な住民環境などが候補になる。（事務局）

5. 住民・教育・分かりやすさ

- ・住民を巻き込んだ実証が都市振興につながる可能性があり、SPring-8 だけでなく、住民の生活を便利にする視点から、企業・大学・学校と連携した実証実験を考える必要がある。(行政職員)
- ・小中学校と SPring-8 の教育連携を進めるべきであり、地元の子どもたちが SPring-8 を知り、身近に感じられるよう、講演や見学などの教育連携が有効である。(行政職員)
- ・専門的な施設を子どもにも分かる形で見せる工夫が必要である。スーパーカミオカンデを紹介する「スカイドーム神岡」のように、SPring-8 の研究内容を分かりやすく伝える公共的な仕組みが参考になる。(有識者)

6. 実証・リビングラボ

- ・地域全体を実証の場にする「リビングラボ」の発想が重要であり、まち全体を研究所のように位置づけ、企業や研究者が社会実験を行い、社会実装につなげる場所として打ち出すことが有効である。(有識者)
- ・身近なテーマから最先端科学につなげる入口が必要であり、焼き芋のような誰もが分かる身近な題材を科学的に測定するなど、楽しく入りやすいテーマから SPring-8 や最先端研究へ誘導できるのでは。(有識者)

7. 財源・実現性

- ・アイデアだけでなく財源の裏付けが必要であり、住民意見やアイデアが出ても、予算がなければ実行できないため、財政面とアイデアを車の両輪として考える必要がある。(行政職員)
- ・特区や国の交付金の活用も検討すべきであり、国家戦略特区や国の交付金を活用し、3 市町が関わるクラスター形成として資金を取り込む視点も重要である。(行政職員)

8. 今後の検討方向

- ・過去の実証と現在の資源を洗い出す必要があり、既存の実証や施設、学生の活動などを整理し、それらを組み合わせることで新しいイノベーションの種を見つけることも重要である。(行政職員)
- ・研究者や企業が交流できる場づくりが必要であり、シリコンバレーのカフェ文化のように、研究者・企業・住民が自然に交わる場が持続的なイノベーションにつながる。(有識者)

以上。